

令和4年度未来を創る学力向上支援事業に係る「未来を創る授業力向上協議会(中学校国語)」〈概要〉

1. 目的

中学校(義務教育学校後期課程を含む。以下同じ。)の国語科代表の教員等を対象に、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり及び授業改善に関する講義・説明等を行うことにより、国語科教員の指導力向上を図り、もって生徒の学力向上に資する。

2. 主催 大分県教育委員会

3. 日時 令和4年10月4日(火) 13:30~16:20

4. 場所 コンパルホール 多目的ホール

5. 内容

(1) 開会行事

大分県教育委員会あいさつ <義務教育課 課長 武野 太>

- ・コロナ禍における各学校での教育活動の継続に感謝する。
- ・生徒の思考・判断・表現力の育成を目指した授業改善を期待する。(小4教材「一つの花」の指導場面における児童の回答に関する記事に触れ、叙述から登場人物の気持ちを読み取らせる指導を例に、国語力育成の重要性について言及。)

(2) 行政説明及び協議「大分県の中学校国語科の課題と授業改善」

<義務教育課 学力向上支援班指導主事 瀧口 忍>

- ・令和4年度全国学力・学習状況調査において、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均を上回り、「話すこと・聞くこと」「読むこと」は全国平均を下回った。



- ・協議①②では、課題が見られた調査問題を取り上げ、出題の意図を示したうえで、「生徒はどこにつまずいて解答できなかったのか」を議題に協議を実施。

- ・協議③では、実際の授業を想起させるため、指導案の一部を提示し、単元の指導計画と本時の展開を見比べながら、③「どの部分に授業の改善点があるか」について検討し、指導と評価に一貫性を持たせることの意義を確認。



- ・指導改善のポイントは次の三点。①単元で取り上げる指導事項は明確になっているか②どのような言語活動を設定するか③効果的なICTの活用(手立ての有効性)

(3) 講義「学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり」

<国立教育政策研究所教育課程調査官・学力調査官 鈴木 太郎 氏>

- ・学習指導要領の目標に「言語活動を通して」とあり、授業づくりにおいて、これが大前提となる。
- ・指導→評価→授業改善→指導のサイクルが重要であり、「学習指導要領に定める目標に準拠した」評価を行うことが求められる。
- ・評価の実際と手立ての想定は、単元の授業に入る前に行い、生徒が文章をどのように書くのか、授業者が実際に書いてみる等、生徒の具体的な姿を思い浮かべることが肝要。特に、あらかじめ「Bと判断する状況」を具体的に思い描くことが大切。
- ・教師からの適切なフィードバックは、生徒の学習意欲や学力向上において大きな支援となる。

* 授業や評価の具体を挙げながら、実際の場面における指導に役立つ講義が行われた。

(4) 閉会行事